

## 小平市の用水路の現状と課題について

### 1 用水路の概要

小平市は、1654年江戸市中への飲料水の供給のため玉川上水が開通し、その翌年に玉川上水から野火止用水が分水されたことで、新田開発に関する分水が行われた。1656年の小川用水に始まり、砂川用水、田無用水、大沼田用水、関野用水、鈴木用水、野中用水の順で開削され、その目的の多くは生活用水であったため、街道に沿った短冊形の農家の屋敷内を横切るように流れている。

その後、上水道の整備や市民の生活様式の変貌などの理由から、1965年に小平監視所から下流の玉川上水、1973年に野火止用水について、流水が停止した。しかし、住民や市民団体などの流水再開に関しての機運が高まったため、東京都の清流復活事業により、1984年に野火止用水、1986年に玉川上水に流水が再開している。

現在では9つの用水路（延長約50km）があるが、野火止用水を除く市内の用水路は、多摩川から取水した水を流している。しかし、多摩川の水は都民の飲料水となっているため、その流量は一定の制限があり、この水量では、市内全域の用水路に水を流すことはできない。このことから、市では流水の確保に努め、東京都に更なる水量を求めるほか、新小平駅付近と津田塾大学付近において、JR武蔵野線トンネル湧水の一部を活用して用水路に放流している。

### 2 用水路の特徴

#### ①環境用水としての活用

用水路は生活用水として使われていましたが、水道や下水などの施設が整った現代では、用水路は「環境用水」として市内を潤しており、水辺環境の少ない小平市において重要な資源となっている。

※環境用水とは、水質、親水空間、修景等生活環境又は自然環境の維持、改善等を図ることを目的としている。

#### ②素掘りの用水路

小平市の用水路は素掘りで掘削した用水が多く残っており、自然的な景観が形成されている。また、法面保護のため、簡易的な護岸をした箇所においても用水路底面をそのままの形として残している。

#### ③母屋の裏手に用水が流れている

青梅街道に接した位置に母屋、土倉があり、その裏手に用水路が流れ、畑へとつながる土地利用が図られている。

### 3 用水路に関する維持管理費

用水路に関する歳出予算については、整備に関する予算、維持管理に関する予算（修繕、流水管理、植生管理等）、市民協働に関する予算に分けることができます。過去5年分を平均すると1年当り約8,500万円となります。

収入予算については、用水路占用に係る収入、用水路敷地売払いに係る収入に分ける

ことができます。過去5年分を平均すると約2,520万円となります。

売払いについては対象箇所が減っていくため、減少していくことが見込まれます。今後も一定の整備を進めていくうえでは、新たな売払い敷地を検討することも必要となります。

#### 4 用水路の現状と課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用水路をまちづくり全体で活かしていく視点が不足している</li> <li>・市内東部地域において、流水のない状態が続いている。</li> <li>・用水路脇の宅地化が進み、昔ながらの景観が失われている。</li> <li>・生物多様性の視点が重要になっている。</li> <li>・十分な予算確保ができておらず、十分な修繕が行われていない。</li> <li>・用水路に親しみの無い世代が増えている。特に子供は用水路を知らない状況がある。</li> <li>・案内看板の設置など、広報的な取組ができていない。</li> <li>・沼さらい等の市民協働において、高齢化が進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○用水路を活かしたまちづくりの観点               <ul style="list-style-type: none"> <li>・用水路の魅力の向上</li> <li>・流水の無い地区における在り方の検討</li> <li>・生物多様性への配慮</li> <li>・昔ながらの景観の維持、復元</li> </ul> </li> <li>○維持管理の観点               <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な用水路管理の検討</li> <li>・計画的な維持管理の推進</li> <li>・巨木化した樹木の計画的な管理</li> <li>・新堀用水胎内堀や、野火止用水法面などで長期的な保全対応の検討</li> </ul> </li> <li>○広報、協働の観点               <ul style="list-style-type: none"> <li>・小平の用水路に対する広報の推進</li> <li>・歴史的な文化施設、観光施設としての保全と広報</li> <li>・用水路を活かした取組の推進</li> <li>・沼さらい等の協働の担い手確保</li> </ul> </li> </ul>